Challenge

No.２

呉市立蒲刈中学校
第２学年通信
令和４年４月１４日

始業式から１週間

初日は，新入生を迎えるための準備をありがとうございました。皆さんも，１年前にこのようにして先輩たちが自分達の入学のために準備をしてくれていたことが実感できたことでしょう。そして，入学式では，１年前の自分達の姿を重ね，感慨深かったことと思います。

１学期の個人目標と学級役員・教科係を決めたので紹介します。

【１学期個人目標】

○石原悠暉くん
・努力を続けて，何事も諦めずに最後までやり切る。

○鏡味桜雅くん
・積極的にチャレンジする。

○小寺颯くん
・元気で楽しく生活し，何事にもチャレンジする。

○藤本優希くん
・家庭学習を，時間を少しずつ増やしながらする。
・部活のソフトテニスやソフトボールなどのスポーツを頑張る。
・挨拶や返事をしっかりとする。

○船田大悟くん
・元気で楽しく生活する。

○岩﨑希風さん
・積極的にチャレンジする。

○加計響希さん
・何事も期日や時間を守る。

○髙島野乃花さん
・みんなに優しくする。

○簾岡凜さん
・何事にもチャレンジする。
・授業での発表でたくさん手を挙げる。

○日浦結月さん
・挨拶をしっかりする。
・人とコミュニケーションをとる。

○船田藍海さん
・最後まで諦めずに頑張る。
・諦めずに自分でやる。

【１学期学級役員・教科係】

代議員	船田くん
広報委員	加計さん
生活委員	船田さん
保健委員	髙島さん
国語係	鏡味くん
社会科係	日浦さん
数学係	石原くん
理科係	船田さん
音楽係	簾岡さん
美術係	藤本くん
技術家庭科係	加計さん
保健体育係	髙島さん
英語係	岩﨑さん
道徳・学活係	船田くん
総合係	小寺くん

みんなで協力して
役割を果たして
いきましょう。

【１学期前期班】

＊班長は◎の付いた人です。

１班	台拭き係	◎船田くん　小寺くん・加計さん・日浦さん
２班	集配係	◎岩﨑さん　石原くん・藤本くん・船田さん
３班	学習係	◎鏡味くん　髙島さん・簾岡さん

これからの学びでは，異なる視点の文章を読み比べ，自分の意見をまとめる力が求められます。「朝日新聞」の『筆耕』の記事を活用した取り組みを見つけましたので，紹介します。

熱く語れる芯ある自分に

大分県の公立高校から、米国のハーバード大学に進学しました。受験時や在学中に感じたのは、「自分について熱意を持って語れるもの」を持つことの大切さでした。

試験で満点をとれる人はたくさんいますが、それだけでは合格できない。学力のほかに重視されたのは、課外活動の履歴、性格など人としての力です。私の場合、3歳から続けてきたバイオリンも、どんな思いで続けてきたか面接では熱意をもって話すことができました。「色々乗り越えてきたし、大丈夫」という何事にもポジティブな性格も重視されたと感じています。

大学生活はいつもプレゼン合戦でした。専攻や課外活動などなにかを決めると、友人との会話でその理由を問われます。そこで、自分の思いを話せないと会話は続きません。意見がないのは、「そこにいない」のと同じです。

暗記など受験のための勉強の内容を、熱意をもって語るのは難しいでしょう。何よりも、自分の好きなことを学び、自分だけのストーリーを持つことが大切です。冥王星についてひたすら語れるでも、カマキリの生態に詳しいでも、何でも良いと思うんです。それが自信になり、心に余裕が生まれます。ひいては、周りの人がしてきた努力を想像する力にもつながります。

チェロ奏者のヨーヨー・マとシルクロード・アンサンブルとの共演でも、その大切さを痛感しました。みんな演奏を通じて自分のストーリーを語るのです。それぞれの背景を音に乗せてお客さんの心に届ける技に衝撃を受けました。世界中どこへ行っても、人の目を見て話す・聞く、という基本的なコミュニケーションを身につけることが信頼につながると改めて学びました。

いま振り返って、海外に進学してよかったと思います。子どもが海外に進学したいと言うと、「治安がよくない」「学費が高そう」「生活が大変そう」・・・などの理由を並べて反対する大人も多いと聞きます。でも、私が実際に米国に行ったら違いました。必ずしも、大人の言うことが正しいわけではないのです。うのみにしてはいけません。

若者はやりたいことがあれば、自分の基準で物事を判断したほうが絶対にいい。最近は大学で教えていますが、自分のやりたいことを見つけている学生が多いと感じます。いい傾向だと思います。

能力を測る基準が、学歴だけになるのは問題です。学歴は「努力した人」という指標にはなっても、創造力やコミュニケーション能力、人柄などは測れません。基準はできるだけ増えたほうがいいと思います。これからの時代に必要な人間の才能は、色々な側面に隠れていますから。

【2021・12・3 朝日新聞 オピニオン面より】

廣津留すみれ
バイオリニスト
1993年、大分市。ハーバード大，ジュリアード音楽院を主席で卒業。成蹊大学客生まれ員講師，国際教養大非常勤講師。

上記の記事を使い，自分の意見を加えて200字にまとめ記述力を高めるという取り組みです。

【中学２年生・女子の作例】

私も、自分の好きなことに熱意を持てるようになりたい。なぜなら、廣津留さんの言うように、自信と余裕につながるからだ。私の友達は、本気でバレリーナを目指している。彼女は毎日バレエ教室に通い、高校もバレエができる学校に行くそうだ。バレエで人生を切り開く姿を見て、好きなことを突き詰めると自信が出てくると感じた。私には、自信を持てるものが少ない。まずは、好きなことを突き詰めていくことから始めたい。（195字）

まとめのコツ
①見出しから読めば、理解が早くなります。
②参考になる箇所や、共感できる（できない）意見には線を引きましょう。
③わからない言葉や気になることは、辞書やインターネットで調べましょう。
④「意見」「理由」「経験」「結論」の順に、四つの固まりを意識して書きましょう。

作例について，教育アドバイザーの清水章弘さんが，次のようにアドバイスをされています。

廣津留さんの意見をふまえ，友人に関する具体的なエピソードを交えて書くことができているのは良いですね。あえて指摘するとすれば，友人のエピソードが中心になっていること。廣津留さんは「自分の基準で物事を判断したほうが絶対にいい」とも述べているので，友人のエピソードが中心だと自分の基準で考えられていないような印象を与えかねません。自分のことを掘り下げることが難しかったのかもしれませんが，自らの思いの丈をつづるだけでも大丈夫。たとえば，友人の描写を少し削って，最後の決意表明を，「まずは自分の趣味である吹奏楽を突き詰め，好きなトランペットについては熱意を持って語れるようにしたい」のように，具体化するのはどうでしょうか。

皆さんにも，「新聞スピーチ」を通して，是非実践してほしいです。